



▲多点掛けはイサキ釣りのだいご味  
▼小気味いい引きが楽しい



★30センチオーバーの良型も交じる

★外房のイサキは今がトップシーズン

▲条件が整えば規定の50尾も狙える

# 良型交じりで多点掛け連発 外房イサキは今が釣りどき

福影 権名 義徳



▼コマセカゴはFLサイズでオモリ60号



▲タナは道系のマーカーを見てしっかり合わせたい  
◀釣れてるときの手返しも釣果をのばす秘訣



▲ハリスを緩めないように抜き上げよう



▲マダイも釣れた



▲トゴツメババルも交じった  
◀良型のキントキはうれしいゲスト



▲シーズンは9月一杯まで  
◀だれでも気軽に楽しめるのがイサキのいいところ

◀反応はバッチリ出ている  
▶良型を多点掛けさせると引きも強烈



◀数をのばすには追い食い狙いが欠かせない

## ヒラメの皮で手返しアップ

◆食いが立てば付けエサ不要の当地のイサキだが、やはり付けエサを付けたくなる時がある。一般にはイカの切

り身やオキアミが使われるが、勸業丸で用意されるのはヒラメの皮。エサ持ちがいいばかりか、イサキの食いもアップするという。



▲勸業丸で用意されるヒラメの皮。右は持参したイカタン



▲ハリにチョン掛けにする



▲米粒大の大ききでカット



▲エサ持ちがいいので繰り返し使える

外房のイサキがトップシーズンを迎えている。目下の釣り場は大原沖の水深25〜40メートルで、タナは海面から18〜35メートル前後。太東港の勸業丸で取材した6月下旬は速潮&澄み潮の悪条件ながら食い気のある反応に当たるとダブル、トリプルを連発、トップは30尾オーバーと魚影の濃さを確認できた。条件さえ整えば再び規定数に達する釣れっぷりとなるだろう。当地のイサキはタナさえ間違わなければ船釣り初心者でも十分楽しめるので、夏休みの船釣り入門としてもおすすめです。(詳細は54ページ参照)



◎外房太東港・勸業丸  
渡邊 秀明船長(左)と若船長の真澄さん